

今回は天守の北西に存在し、天守から裏中門方向への出入り口となる七番門について検討します。

津山城の本丸は逆「L」字状の平面をしており、天守はその南西部に位置しています。そして天守のすぐ東側は高さ4メートル程度の石垣で区切られ、天守周辺はあたかも独立した曲輪の体裁をなしており、「天守曲輪」と呼べるような構造になっています。

その天守曲輪は2か所の門で本丸御殿と通じ、今回取り上げる七番門で二の丸と通じていました。

この七番門は、絵図によると上部が多門櫓でその下に門が開くという、いわゆる「櫓門」の形式になっていたことが分かります。明治以降この門の部分は埋め立てられていました。



七番門周辺絵図(津山城資料編から)

この部分を発掘調査した結果、次の2点が明らかになりました。七番門は本丸の地面よりも低い位置に存在しており、天守曲輪から七番門までは石段で降りるようになっていた。本丸から七番門を通り外に出ると二の丸に至るのですが、その間の落差が約2メートルあり、簡単には二の丸に降りることができない。

については逆の言い方をすると、二の丸から七番門へ入ろうとしても高さ2メートルの石垣をどうにかして登らないと七番

津山城百聞録

43 津山城の築城過程 4 七番門の謎

門へ届かないのです。

通常ならば七番門から外には石段が付き、それを利用して二の丸へ降りることが可能はずです。事実、津山郷土博物館にある模型でもそのように復元しています。



西側から見た七番門
(津山城復元模型・津山郷土博物館蔵)
前面の石段は本文と異なる形になっています

では、なぜこのような不合理な構造となっていたのでしょうか？

これは「天守曲輪」の中での七番門の位置を考えれば理解できます。つまり二の丸から天守曲輪へ至る最も近いルートが、この七番門なのです。そのため防備を厳重にするために、門の前の石段をあえて造らなかったのです。

それでは、ふだんの通行はどうしていたのでしょうか？「勘定奉行日記」の文化8年(1811)の記事に「七番門外橋子繕23匁4分」とあり、七番門の外の「橋子」を修理したことが分かります。つまり、七番門の外の本来石段があるべきところには木の階段のようなものが取り付けられていたようです。日常はその階段を使用して通行ができるのですが、いざ戦闘のときはその階段を外して敵が七番門に近づくことができない構造であったのです。

秋といえば芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋などといわれます。5日まで開催された音楽祭に行かれた人も多いことでしょう。私も音楽祭で芸術の秋を満喫し(取材のためゆくり聴く暇はなかった)、運動でさわやかな汗をかき(筋を違えて痛い)ました。やっぱり私には食欲の秋が似合ってる。(ひ)

私は初心者です。音楽祭初日は、緊張のあまり、夜中に何度も目が覚め、あげくの果ては、写真が撮れなくてトホホ状態になっている夢が目が覚めました。こんなに緊張する私には、舞台の上のみなさんがいっそう輝いて見えました。(e)

今年が天候が不順なので、多くの行事がまとまって開催されるこの季節は、参加する人もたいへんです。私が取材した日も雨が降ったり風が強かったりとひどい日にあたりました。とくに雨男ではないはずですが、

編集後記

今月の納税

市県民税 3期
国民健康保険料 4期
介護保険料 5期
納期限：10月31日(金)

ひとの動き

(9月1日現在)
人口 90,105人(前月比 6人増)
男 42,968人(同+9人)
女 47,137人(同+15人)
世帯数 34,831世帯(同+5世帯)

8月中の異動数

出生 66人、死亡 63人
転入 225人、転出234人

10月
2003

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029 (直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)
発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。